

## 大草谷津田生きものの里 自然観察会

### 春にめぐりあえるトンボやチョウチョ

西野孝法（千葉市）

日 時：2022年5月15日（日） 10時30分～12時 天気：曇り

参加者：19名（大人9名、子ども10名）指導員：3名 サポート：1名（岡田）

担当指導員：太田 萩 西野

天候は、曇りさらに気温の低い中での観察会となりました。

私たち指導員は、「この気温では、トンボやチョウは出てきてくれないね。観察路を歩きながらそこで出会える生き物と触れ合うことにしよう」と観察会の進め方を確認しました。

観察会を始めるにあたり、参加者に「大草谷津田での注意事項」「ムシは変温動物なので気温が低いと活動が鈍くなりあまり見られないかもしれないこと」「捕虫網の使い方」を説明しました。子どもたちに捕虫網を渡すと「早く捕りたい」「教わったとおりに網を使ってみたい」というワクワクする気持ちが体中から出てきました。

駐車場の近くで白い花で吸蜜する「ヒメウラナミジャノメ」を見つけたので捕虫網を使って採集しました。本日最初の出会いに子どもたちは大喜びでした。

観察路に出ると、エノキのゆりかご（オトシブミ）、ナナホシテントウ、アカハネムシ、トホシテントウ、ヤブキリの幼虫、チャタテムシ等に出会いました。エノキの葉のゆりかごの説明後に、ゆりかごの中を観察しました。参加者は、「しっかり巻いてある」「緻密にできている」「1つのゆりかごに1つの卵？」など小さなムシの仕事ぶりに感心していました。さらに参加者を盛り上げたのがチャタテムシです。木の幹にできたシミ（チャタテムシの集団）に触ろうとした途端に大きなシミが小さな粒になって消えていくその姿に歓声があがりました。

谷津田では、羽化したばかりのシオカラトンボが飛び始め、田んぼでは上陸して間もない小さなアカガエルが、ピョコピョコと動いていました。参加者は、網を持ってトンボを追いかけ、泥だらけになることを忘れて足元のアカガエルを捕りました。

気温が低くトンボやチョウの数は少なかったですが、他の生き物たちが最高のパフォーマンスを見せてくれて大いに盛り上がりました。「また、大草谷津田に来たい」「小さな生き物達に出会えて良かった」「苦手なムシに触れるようになった」等の感想をいただき、観察会を終えました。

